

第1部	
講師	藤田 賀久
講師肩書	多摩大学グローバルスタディーズ学部 非常勤講師
講演タイトル	「湘南藤沢と戦争——『本土決戦』準備を振り返る」
講演概要	湘南藤沢は、先の大戦で連合軍が上陸を予定していた。日本も決死の本土決戦を準備していた。「終戦」によって惨禍は免れたが、藤沢市内には日本が本土決戦に備えた遺構が現存する。「戦争の記憶」が薄れつつある今、本講座では、多摩大学生と藤沢の戦争遺構を訪ねた成果をもとに、当時を振り返り、改めて過去と現在を問い直す意味を考える。
講師プロフィール	1973年神戸市生まれ。上智大学外国語学部、ジョージ・ワシントン大学大学院修士課程修了。天津外国語学院を経て、上智大学大学院グローバルスタディーズ研究科国際関係論専攻博士後期課程満期退学。日中貿易商社、東京財団研究事業部、国会議員政策担当秘書、日本総合研究所理事長室付研究員、上智大学非常勤講師等を経て、現在は多摩大学・文教大学非常勤講師、慶熙大学校(ソウル)客員研究員、寺島文庫客員研究員。専門分野：東アジア近現代史、国際関係論。
第2部	
講師	谷口 天祥
講師肩書	藤沢翔陵高等学校 教諭
講演タイトル	・文学にみる平和 ——アーネスト・ヘミングウェイやロバート・ウェストールを中心に—— ・高等学校における平和学習の実践例—沖縄修学旅行で何を考えさせるか
講演概要	戦争文学というジャンルがあり、時代の変わり目によく読み返される。平成から新元号へと変わる今年。昭和が経験した戦争を反省してなお、残念ながら平成に戦争が世界から一掃されることはなかった。作家たちは戦争と平和にどう向き合ったか考える。そして新しい時代を生きる高校生らは平和をどう学んでいるのか、実践例を紹介する。
講師プロフィール	1976年神奈川県秦野市生まれ。関東学院大学文学部卒業、2001年関東学院大学大学院文学研究科英語英米文学専攻博士前期課程修了(文学修士)。学習塾、白鵬女子高等学校非常勤講師を経て、現在は藤沢翔陵高等学校教諭。 担当教科：英語

第3部	
講師	根本雅也
講師肩書	日本学術振興会特別研究員
講演タイトル	世界に知られる戦争の記憶?——ヒロシマ・ナガサキ
講演概要	原爆の災禍は日本の戦争の記憶として語り継がれているだけではない。多くの外国人観光客が東京や京都と並んで広島を訪れるように、広島と長崎は核兵器の災禍を受けた場所として世界に知られている。本講義では、国外においてヒロシマ・ナガサキがどのように語られるのかを学び、核兵器と戦争そして暴力について考える。
講師プロフィール	1979年生まれ。日本学術振興会特別研究員(PD)。一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程修了。博士(社会学)。 主な著書に『ヒロシマ・パラドクス——戦後日本の反核と人道意識』(勉誠出版、2018年)、『原爆をまなざす人びと——広島平和記念公園八月六日のビジュアル・エスノグラフィ』(松尾浩一郎・小倉康嗣との共編著、新曜社、2018年)がある。
第4部	
講師	安田震一
講師肩書	多摩大学グローバルスタディーズ学部学部長
講演タイトル	「知られざる米中関係と藤沢・湘南地域について」
講演概要	1940年代の米中関係に言及し、藤沢市と中国雲南省昆明市との関係を検証しながら、さほど知られていない第二次世界大戦中の昆明と米軍との緊密な関係について紹介する。さらには、この関係を踏まえて発表者自身の藤沢市と昆明市との「皮肉な縁」から、両市の交流促進に対する使命感が芽生えた経緯を打ち明ける。
講師プロフィール	1957年東京生まれ。1983年ラバーン大学(カリフォルニア州ラバーン市)卒業、1984年コロンビア大学大学院国際関係研究科(ニューヨーク市)から中国北京大学国際政治研究科へ留学、その後1993年に東京大学大学院地域文化研究科修士課程を修了。1995年、香港大学アジア研究センター助理研究員となる。2001年より岡山県吉備国際大学助教授、2006年東京大学大学院地域文化研究科にて博士号取得、2007年吉備国際大学教授、2008年より東京大学大学院国際ジャーナリズム寄付講座にて特任講師を経て、2011年4月より多摩大学教授、2012年10月より学部長一現在に至る。 専門研究分野：表象文化論、東西文化交流史、中国史